

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、研究授業を活用するなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。 ・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」における資格取得の向上への取組など、進路支援の充実に努めることが必要である。 ・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりを推進し外部関係機関との連携を強化することが必要である。 ・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、進路指導における全体の指導力の向上が必要である。 	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 (2) 部活動の充実 (3) コミュニティー・スクールの推進 (4) 教職員の資質向上と健康増進 	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○生徒が自己肯定感をもって取り組めるような授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業、参加している実感や興味をもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4:80%以上であった。 3:60%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。	4	・今年度は89.0%であり、昨年の86.6%を上回ることができた。多くの教員は生徒に理解してもらうにはどのような授業をすればよいか日々考え試行錯誤しながら教材研究に励み、少人数のクラスにおいて個々の生徒に対してわかる授業を心掛けている。 ・個々の生徒が自己肯定感をもてる授業の工夫と改善も少しずつ進んでいる。	・生徒の授業アンケートを実施され、結果を真摯に受けとめられている。先生方の姿勢・指導の継続をお願いしたい。 ・他校や中学校との相互の授業研究を通して、先生方のさらなる授業改善をお願いしたい。	A
	○教員相互の授業研究・公開授業の推進	・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究を進める。	4:3回授業参観し、授業研究に努めた。 3:2回授業参観し、授業研究に努めた。 2:1回授業参観し、授業研究に努めた。 1:授業参観することはなかった。	3	・本校、他校、中学校などの公開授業に2回以上参加し教員相互の授業研究を進めることができた。その結果授業の改善に役立てることができた。 ・本校実施の公開授業では、中学校等の参加者がおり、アンケートでは、丁寧な授業・生徒とのコミュニケーションがよい・生き生きと授業に取り組んでいる等の意見をいただいた。さらに授業の改善に役立てていきたいと思う。		
生徒指導	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、家庭との協力や相談を密にする。	4:校内だけでなく校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3:校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2:生徒への対応が図られた。 1:生徒への対応に不十分な点が多かった。	4	・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。保護者からの相談も従前よりは行いやすくなったと思われる。 ・また、校外での各関係機関(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事案によっては協議している。昨年度よりもケース会議の回数が増加し連携強化が進んだ。	・生徒に合わせた支援・指導を実行されている。これからも継続して一人ひとりに対応してほしい。 ・これからは内外を含めて連携をしていくことが必要である。	B
	○日常の生徒の意識や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多様多様であるため、学校不適応による意欲の低下やいじめなどの人間関係を事前に察知する必要がある。そのために、学校生活アンケートを実施する。	4:個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3:個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2:支援と指導に取り組んだが、事後対応が主であった。 1:支援と指導が不十分であった。	3	・生徒一人ひとりの状況を担任が把握し、教育相談や生徒指導担当との情報共有を行っている。全体の職員会議においても、定期的に情報交換を行い、支援や指導方法について模索してきた。 ・特に、高校で学習し卒業するという価値観に乏しい生徒や、個別支援が必要で集団生活が難しい生徒への対応に苦慮している。今後もこのような生徒が増加傾向にあるので協働体制を構築していく必要がある。		
進路指導	○進路目標をしっかりと持ち、夢の実現にむけチャレンジし続ける生徒の育成をめざす。	・各担任を中心として、情報交換を密にし、生徒各個人の進路希望の把握をする。生徒個々に応じた効果的な個別指導に繋いでいく。	4:7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的な進路に結びついた。 2:情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1:情報伝達に終わった。	4	・全員の卒業生に支援を行うことができた。進学希望者については、進路意識も高く進路先が早々に決定した。しかし、就職希望者は、生徒本人の希望もあり、継続して取り組んでいる者もいる。雇用状況が今年も良かったにもかかわらず、自分がどんな職業に就きたいのか、どのように人生を歩むのか分からない生徒が増えてきたようである。 ・総合的な学習の時間などを使った低学年からのキャリア教育の検討が必要であろう。	・個別対応が重要だと思う。個々の進路実現に向けては多様性が求められると思う。 ・検定(目標)を定めることにより学習意欲の向上につながったと思う。 ・多様な進路に対応できるようにキャリア教育を充実させてほしい。	A
		生徒個別の進路実現をはかるため、授業内での基礎学力の充実に取り組むため、出席率を向上させる。また、「総合的な学習の時間」を利用して、検定の合格を目指す。	4:生徒のほとんどが出席率90%以上で、資格受検率も90%以上であった。 3:生徒のほとんどが出席率80%以上で、資格受検率も80%以上であった。 2:生徒のほとんどが出席率70%以上で、資格受検率も70%以上であった。 1:生徒のほとんどが出席率70%以上で、資格受検率も50%以上であった。	3	・全体の出席率は90%を超えて(第2学期末まで91%)。検定等の受検については、36名のうち27名が受検し14名が合格した。受検率は75%とやや低いものの昨年度の64.1%を大きく上回った。合格率が上がった要因として、検定・資格の種目を多様化し、生徒個々にマッチするように取り組んだことが理由のひとつと考えられる。ただ、漢字検定の選択者の合格率が低く、漢字検定については受検する級の選択を慎重に選ばせる必要があると考える。		
特別活動	○生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良き慣習が引き継がれるように支援する。儀式的活動では望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事において、生徒会役員のみならず全生徒を主体的に活動させる。始業式や定体連行事などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出に残るものとさせる。	4:すべての行事で主体的かつ協調的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協調的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協調的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協調的に活動させることができなかった。	3	・生徒会中心の行事については例年の典型がほぼ完成されている。生徒会の中では、例年通りの伝統を引き継ぎつつも、独自性を出せるよう検討している。新生徒会では今までよりも、意見交換が活発に行われている。 ・生徒数は40名足らずではあるが、集団に参加できない、意欲がないなど多種多様な生徒がいる。これまでに以上に個別の支援や配慮が必要である。全員が主体的に活動できよう様々な工夫が必要である。	・生徒・保護者・先生方との連携が整っていると感じた。 ・学校行事を通して生徒の人間的な成長を支援してほしい。	B
業務改善	○組織的な取組	・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、教職員間の情報交換を活発に行い、全員で進路指導にあたる。	4:教員同士の連携が進み指導力の向上がみられた。 3:教員同士の連携は進んだが指導力の向上までは至らなかった。 2:教職員同士の連携は従来通りで大きな変化はなかった。 1:教職員同士の連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	・大学進学、専門学校進学、就職、高校卒業資格取得と生徒の進路希望の多様性が増し、さらに専門の支援を必要とする生徒も増加している。保護者、スクールカウンセラー、ハローワーク等の関係機関と連携をとりながらキャリア教育に力を入れている。進路指導の結果、進学希望者全員の進路決定ができた。 ・早い段階から進路意識の醸成のために教職員全員で協力して進路指導に当たることが必要である。	・文庫・金庫・データ等の整理・整頓にこれからも努めてほしい。 ・環境整備は仕事効率を上げることになるので積極的に取り組んでほしい。	A
	○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・書架や供覧文書の設置場所など、職員室の作業環境を見直し、ワーキングスペースを拡充する。 ・校内のサーバー内の文書を整理し業務の効率化を図る。	4:作業環境が整理整頓され、ワーキングスペースが拡充された。 3:作業環境が整理整頓されたが、ワーキングスペースの拡充には至らなかった。 2:作業環境は従来どおりで変わらなかった。	3	・長期休業等を利用して書庫の中の不要な文書・書籍等を処分した。職員室の金庫内の重要書類の一部を事務室内の金庫に移動し整理した。南側の書庫の文書が飽和状態になっており整理が必要である。 ・校内のサーバー内の文書整理を行った。同一の形式を取ることで業務の効率化が図られた。継続してデータの整理をしていく必要がある。		

1:今年度分の増加で、作業環境がより劣悪になった。

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【成果】	<p>①フォローアップ研修、高等学校等学校訪問の研究授業をはじめ、互見授業や他校への公開授業への参加など、活発な授業研究が行われた。授業アンケートでは、肯定的な評価の割合が増加した。</p> <p>②検定学習の種目や内容の見直しを行い、生徒個々にマッチするように取り組んだことにより、生徒のモチベーションが上がり、検定試験の合格率が向上した。</p> <p>③6名の卒業生に対して教職員全体で進路指導を行うことにより、進学先・就職先の早期決定ができた。特に進学希望者については、希望通りの大学・専門学校に進学が決定した。</p>
【課題】	<p>①個別支援が必要な生徒、集団での活動が苦手な生徒が増加傾向にある。進路実現も含めて多面的に成長を促す必要性がある。</p> <p>②総合的な学習の時間の見直しにより、検定試験の合格率はある程度改善されたが、意識の低さから受験率がまだ低い状況にあった。</p> <p>③PTA活動への保護者の参加率が低い状況であった。全日制・定時制の垣根を超えたPTA活動への参加が課題である。</p>

7 次年度への改善策	
<p>①入学後すぐに中学校、関係機関と連携して生徒支援の切れ目がないようにしていく。また早期からキャリア教育を意識して進学指導を教職員全体で取り組んでいく。</p> <p>②総合的な探究の時間の導入、新学習指導要領へ対応した「社会に開かれた教育課程」の編成をする中で、計画的な進路体制を整える。</p> <p>③PTAの啓発活動のために、定時制からもPTA役員への参加を促す。ホームページやPTA新聞などを通して参加できる行事を、保護者へ周知徹底する。</p>	